

# 平成27年度 学校評価実施報告書

## 3 2回目評価

| ・重点評価項目について評価・改善していくための個別評価項目の設定<br>・各項目にわらいを定めた取組の計画・実施<br>・取組結果を検証するためのアンケート項目や各種指標の設定 |       |   |  |  | ・アンケート実施結果、その他指標の結果について整理 |
|--|-------|---|--|--|---------------------------|
| 分野   | 評価項目  | 自校の取組   | アンケート項目・各種指標   | アンケート結果・各種指標結果   |                           |
| 1  | 確かな学力 | 主体的に遊び込む子どもの育成<br>コミュニケーション力の育成<br>ノーテレビ・ノーゲームデー、絵本読もうデーの推進、言語活動（絵本を読む、話し合い）の充実 | 昨年度の国立教育政策研究所や京都市指定の研究をもとに、園内研修で子どもの記録の検討を継続し、一人一人の発達に応じた指導の充実をめざす。<br>挨拶の意識向上<br>聞きたくなる話したくなる信頼関係の構築<br>100冊読書の親子の取組<br>絵本室の活用、話し合いの機会の確保 | 一人一人の発達に応じた経験ができるようにしているか。幼稚園に行くのを楽しみにしているか。毎日めあてをもって登園して自分の力を十分に発揮していると思うか。<br>「言葉で伝えたい思いの育ち」は94%、「話を聞く態度」は89%、「挨拶や返事」は94%あてはまると回答<br>自分の思いを言葉で伝えたいという思いが育っています。人の話を聞く態度が身についていると思います。挨拶や返事ができていると思いますか。<br>「ノーテレビ・ノーゲームデー」絵本読もうデーの取組は定着しました「めざせ100冊親子で読書」の取組は楽しめていますか。 | ⇒                         |
|  | 豊かな心  | 豊かな体験活動<br>規範意識の育成<br>豊かな感性を育む  | 園内・外での自然体験<br>小動物とのふれあい<br>地域や小中学校等との交流<br>遊びや生活の中での具体的な事柄からの指導<br>全教職員による素地指導<br>園庭の草花などの環境の充実<br>伝統文化に触れる、観劇体験、正しい言葉使いの徹底                | 子どもの姿の変容<br>子どもがいきいきと園生活ができるように環境づくりをしていましたか。<br>園内研修での細かい子どもの記録の分析・回数<br>素地指導の回数<br>園内研修での細かい子どもの記録の分析  | ⇒                         |
|  | 健やかな体 | 基本的生活習慣の確立<br>進んで体を動かして遊ぼうとする子どもの育成   | 一人一人に応じた丁寧な指導<br>広い元待賢小学校校庭の活用・園外保育の充実・環境整備・計画的な保育   | 「早寝・早起き・朝ごはん」は実行できましたか。基本的生活習慣がついていると思いますか。<br>体力がついてきていると思いますか。友達と元気に遊んでいると思いますか。   | ⇒                         |
| 4  | 独自の取組 | 地域に開かれた子育て支援推進<br>情報発信の充実<br>預かり保育の充実   | 毎日の園庭開放・教育相談<br>未就園児親子の遊びの日の開設<br>子育て支援センター等との連携<br>HPの積極的な更新<br>地域への情報紙の発行<br>保護者への保育の説明<br>毎日預かり保育の実施（全園）<br>保護者・地域の方の人材活用               | 参加者数、参加者感想<br>HPアクセス数<br>地域からの意見<br>保護者アンケート結果<br>預かり保育参加者数・アンケート「預かり保育は安心安全な遊びの場や保護者の子育て支援になっているか」  | ⇒                         |

学校名( 京都市立待賢幼稚園 )

| 自己評価  |   |
|---|---|
| 評価日   | 平成28年2月29日  |
| 評価者・組織  | 幼稚園評価委員会  |
| 分析（成果と課題）   | 自己評価に対する改善策   |
| 待賢幼稚園ならではの遊び込みを重視した保育を通して、個だけでなく集団育成やコミュニケーション能力の向上、主体的な子どもの育成に繋がっている点は高い評価を得ている。毎日絵本の読み聞かせをしているが、聞かせ方の違いにより読み深まり方に違いが生じている。園では聞く態度、言葉遣いについて、さらに指導が必要である。         | さらに子どもたちに主体性を発揮させるためにも、日々の子どもの活動内容を精査し、計画・修正が柔軟に行える保育実践に努める。<br>いろいろな人の読み聞かせが、100冊親子読書に繋がるようにする。子どもの話を聞くことを大切にしながら、場に応じた聞き方や言葉遣いの大切さをメリハリ付けて指導していく。                         |
| 保育の中で、細かな子どもの読み取りや指導の在り方の見直す機会を随時行ってきた。遊び込みの保育が自尊心や道徳心、規範、自己有用感の高まりに繋がり、幼児期に育てることが重要な子どもの内面の育ちに大きく影響していることを保護者は実感している。  | 子どもの細かな育ちを読み取る研究を引き続き行いながら、人との関わり合いを大切に、地域や他団体との交流、さらには豊かな体験活動を行う。<br>街中の園ではあるが、園内はさらに自然環境を意識して取り込み、今後も豊かな感性が育まれるように努める。  |
| 早寝に課題が見られる点は、幼児期のこの時期に改善しておくことが重要である。12月から約3ヶ月間取り組んだ朝マラソンは、意欲や体力の向上に繋がっているという保護者の実感につながっている。  | 子どもの成長とともに、基本的生活習慣や早寝早起き朝ごはんへの意識に変化が見られてきた。就学・進級に向けて、保護者とともに確認・見直しが必要である。寒い冬場のラジオ体操、マラソンは、基本的生活習慣、体力向上に大変効果があった。  |
| 保護者の口コミでやHP等で未就園児のひよっ子クラブ（月・金）は周知はされている。ひよっ子クラブへの参加者やHPアクセス数は、昨年度より減少傾向にある。今年度から始まった18時までの預かり保育は、保護者への周知が徹底され、特に月・金曜日の利用度が高まってきている。入園問合せ等からも、預かり保育実施があまり周知されていない。 | 子どもたちが地域で健やかな成長を図るために、地域諸団体（民生児童委員会、更生保護女性会）との連携を強化している。地域にある子育て支援センターとしての役割を果たしていけるように、情報や課題を共有していく。<br>今後も個人情報に配慮しながら、保育の様子を毎日HPで積極的に公開していく。<br>休業中の預かり保育で、ボランティアの活用が進んだ。 |

| 学校関係者評価   |   |
|---|---|
| 評価日   | 平成28年3月2日   |
| 評価者（いずれかに○）   | <div> <div>学校運営協議会</div> <div>学校評議員</div> </div>  |
| 学校関係者評価による意見  | 学校運営協議会・学校評議員による改善に向けた支援策   |
| 幼小連携の在り方を考える上で、年間を通して計画的に取り組んでほしい。絵本、読み聞かせは、子どもの情緒の安定や良好な親子関係をつくることに関係してくるので、今後も引き続き取り組んでほしい。   | 他園で不調をきたした子どもが、本園で自分らしさを発揮している例が多くある。本園並びに公立幼稚園の子どもの受け入れの広さである。学校運営協議会の活動支援ボランティアが、来年度以降も継続した支援をしていきたい。                         |
| 日常保育の質の向上のために、園内研修だけでなく他園実施の研究保育にも積極的に参加しいる。幼小連携も視野に入れて、保育が行われている。幼稚園の在籍の子どもだけでなく、地域の子どもたち（親子）の豊かな育ちについても考えてほしい。                                      | 待賢幼稚園には、公立幼稚園ならではの地域との繋がりの深さが見られる。幼少期お年寄りや触れ合うことは、核家族・少子化が進む社会環境では、心を耕していく上で大変効果をもたしているのではと考えられる。                               |
| よりよく子どもが成長・発達を遂げていくためには、家庭のさらなる努力が重要である。今大事にしなければならぬ当たり前のことを、家庭がきちんと教えることである。   | 基本的生活習慣を身につけさせることは、家庭教育の大きな役割である。家庭の教育力を向上させるためにも、地域でも親と繋がりがあって子育て応援をしていきたい。  |
| 地域の親子が気軽に来園できる子育てステーションとして、ボランティアの協力により親子にとって安心・安全な環境づくりを心がける。今年度より18時までの預かり保育が始まったことは、今後さらに就労等で支援の必要な家庭が園選びをされる上でも、選択肢の一つになってくる。園・PTAとの繋がりが大事にしてほしい。 | 園が常に安心・安全であるためには、預かり保育ボランティアをさらに活用してほしい。今年度より18時までの預かり保育が始まったことは、今後さらに就労等で支援の必要な家庭が園選びをされる上でも、選択肢の一つになってくる。園・PTAとの繋がりが大事にしてほしい。 |

## 4 総括・次年度の課題

- ・公立幼稚園に対する信頼度を高めていくためには、預かり保育や未就園児への取組だけに力点を置くのではなく、主体性や協同性等を培う日常の遊び込みを大事にした保育の充実が欠かせない。
- ・地域の小学校とより繋がっていくためには、管理職を中核とした事前の話し込みや計画的な幼小連携の取組を行っていく必要がある。
- ・子ども・子育て支援新制度実施年の今年度は、18時までの預かり保育が公立全幼稚園で始まった。一年を通して、延べ3,200名近い利用があり、次年度以降さらなる計画的な内容を重視した保育が求められる。
- ・子育て支援の一つとして、0～3歳の子どもをもつ親子が集える「ひよっ子クラブ」や日々の園庭開放などがあるが、園に来やすい雰囲気づくりや親子で遊べる内容の工夫も随時行っていく必要がある。

